

令和 5 年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

分担研究報告書

病院薬剤師業務の評価のための DPC データの活用に関する研究

研究分担者 伏見 清秀 東京医科歯科大学大学院 教授

研究要旨

本研究は、医療需要や医師の働き方の変化、医師等の需給推計方法を考慮し、病院薬剤師の需要推計に貢献する手法を開発し、医療行政の基礎資料を構築することを目的とした。DPC データを用いた病院薬剤師の需要推計モデルの開発デザインを定めるため、班会議を通じて協議を行い、現状調査結果や施設規模の異なる病院に関する需要推計値の補正について検討した。医療需要の変化や地域医療構想、医師の働き方改革などを考慮した病院薬剤師の需要推計法の開発に向けた医療データベースの活用方法を検討した。医師や看護師、PT・OT の需給推計法を参考にし、診療報酬データから病院薬剤師の指標を選定し、必要な薬剤師数を見積もる手順が提案された。将来の病院薬剤師の需給推計と患者数の予測が可能とされた。また、DPC データと病院薬剤師会の現状調査データを連携して、病院の機能や病床規模による薬剤師数の違いを考慮した需要推計式の展開を図った。最終年度では、病院薬剤師の需要推計モデルの精緻化を行い、薬剤師需要の推定精度の改善を行った。

A. 研究目的

本研究では、医療需要や医師の働き方等の変化、医師等の需給推計方法を踏まえた病院薬剤師の需要推計に資する手法を開発し、病院薬剤師に係わる医療行政の基礎資料の構築を目的とする。

令和 4 年度は、病院薬剤師の需要推計モデルの開発デザインを定めた。

B. 研究方法

令和 4 年 8 月 1 日、11 月 2 日、令和 5 年 2 月 6 日と 3 回の班会議を開催し、DPC データを用いる病院薬剤師の需要推計モデルの開発デザインについて協議した。日本病院薬剤師会の令和 4 年度病院薬剤部門の現状調査結果の提供を受け、DPC 病院とは異なる

施設規模の病院に関する需要推計値の補正を検討することとした。

C. 研究結果

従来の処方箋枚数に基づく薬剤師の基準に対し、医療需要の変化、地域医療構想との整合性、医師の働き方改革等を踏まえた病院薬剤師の需要推計法に向けて、医療データベースを活用した開発デザインを検討した。

研究の開始にあたって、3 つの論点が挙げられた。第 1 は、入院医療（一般病床・療養病床、精神病床）に対してのみ需要推計することし、外来・在宅医療、介護福祉は今後の検討課題とするか。第 2 は、現在の体制で必要な医療サービスについて、概

ね提供できていると仮定し推計するか。第3は、ライフワークバランスやその他の観点を需要推計に盛り込むか、である。協議の結果、論点1については、入院医療を中心に需要推計を行うが、外来医療についても加味すること、論点2については、現在の体制で必要な医療サービスが概ね提供できているとする推計と実施割合は少なくとも客観的なアウトカム評価が可能な先駆的な取組についても含める需要推計の2本立てで検討する、論点3については、ライフワークバランスやその他の観点も盛り込んで検討を進めることとした。

D. 考察

医師、看護師、PT・OTの需給推計法を参考に、診療報酬データの中から病院薬剤師の指標となるものを選定し、各指標の係数や実施割合を推定し、掛け合わせることで必要な薬剤師数を見積もる手順が提案された。推計の起点となる、現状をベースとした需要推計の方法として妥当であり、急性期とか病床種別や疾患による分類を検討し、労働条件や薬剤師体制の今後の方向を加味することで、将来の病院薬剤師の需給推計が可能となり、将来の患者数の変化に応じた予測も可能と考えられた。

先行研究となる武田班の報告では、病院機能により薬剤師の業務内容や時間が異なることが示されており、医療データベースの一つであるDPCデータは、DPC病院に限られる。武田班の結果の再解析では、病院の病床規模別の薬剤師数に加えて、病院機能別の薬剤師数を考慮することが重要で、

同じ400床以上の病床規模の病院であっても、特定機能病院やDPC病院の薬剤師数は、一般病院、ケアミックス、療養、精神病院よりも多くなっている。

病院薬剤師会の令和4年度病院薬剤部門の現状調査結果をDPCデータと連携して活用することで、DPC病院とは異なる機能の病院群への需要推計式の展開を図る。薬剤師の多様な業務を反映できるDPCデータとして、病棟薬剤業務、薬剤管理指導料に加えて取り上げるべき項目を整理した上で、病院薬剤師の需要推計モデルを構築する。最終的には、病院機能による病院薬剤師業務の相違を反映するためにDPCデータに加えてレセプトデータであるNDBデータ等を組み合わせることで評価することにより、需要推計モデルの検証を目指すこととした。

病院名をコード化し、日本病院薬剤師会の現状調査データとDPCデータを連結する作業を進めた。

E. 結論

令和4年度の研究成果を踏まえて、最終年度は、病院薬剤師の需要推計モデルを完成させた。DPCデータを用いた薬剤師の需要推計の方法論を示した。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

なし。

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし。